

ふるさと再発見 第54回

Rediscovery Omihachiman

まちのなまえ ③

「岡山」

「岡山と琵琶湖にまつわる地名」

今回は、「岡山」地域の地名を特に琵琶湖との関係に着目しながら紹介します。

「岡山」という地名の由来は、今は無き水荃内湖にそびえていた岡山に見出すことができます。

水荃内湖は、昭和19(1944)年に干拓が行われるまで現在の牧町に存在していました。この水荃内湖には、砂洲で陸続きになっていた島(頭山、尾山、後山)があり、古く「水荃の岡」と呼ばれていました。その景観の美しさから『万葉集』に「雁がねの寒く鳴きしゆ水荃の岡の葛葉は色づきにけり」と詠まれ、古代から広く認知されていました。ちなみに水荃というのは筆や筆跡などの意味があり、『万葉

集』では「水荃の」の形で枕詞として使用されていました。さらに南北朝時代には、湖上水運を押さえる要衝の地としてこの山々に水荃岡山城が築かれていました。

江戸時代、岡山学区には小船木、加茂、田中江、牧、大房、船木、南津田の7つの村がありました。「船木」は造船用の材木の集散地であったことが地名の由来で、平安時代には船木郷という名が『倭名類聚抄』に見受けられ、また郷内には船木荘という荘園も存在していました。少なくとも江戸時代には船木湊が設けられており、八幡堀につながることから八幡浦とよばれ、琵琶湖東岸の要港として知られ

ていました。

「南津田」の名前の由来は室町時代にさかのぼります。この地は当時津田荘と呼ばれており、荘園の範囲内にありました。津田荘は後に北荘・中荘・南荘の3つに分かれ、南荘が現在の南津田の名前の由来となりました。ちなみに中荘・北荘は現在の島学区の北津田町、中之庄町にあたります。文安4(1447)年、大嶋奥津嶋神社文書の『南津田荘御供料日記』でその初見を確認することができます。

元水荃町からは、発掘調査で縄文時代の丸木舟が合計で7艘見つかっています。縄文時代からこの地域では、舟を使い物資



明治時代の岡山学区

の運搬や漁労を行っていたことが分かる貴重な史料です。このように岡山地区周辺には琵琶湖にまつわる地名が多く残ります。これらの地名から今とは違った当時の景観を想像し、その歴史を感じてみてはいかがでしょうか。



水荃遺跡から発掘された丸木舟

お詫びと訂正

本紙5月号「ふるさと再発見」で、並記の西暦年と年号の表記に誤りがありました。お詫びして訂正します。

- (誤)「明治22(1947)年」
- (正)「明治22(1889)年」
- (誤)「明治24(1949)年」
- (正)「昭和24(1949)年」



●本紙の掲載内容は、近江八幡市(近江側)のホームページに掲載されています。●掲載内容は、近江八幡市(近江側)のホームページに掲載されています。

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

人口と世帯 令和5年5月1日現在 ()は前月比

| | | |
|----|----------|--------|
| 総数 | 81,735人 | (+ 66) |
| 男 | 40,140人 | (+ 14) |
| 女 | 41,595人 | (+ 52) |
| 世帯 | 35,288世帯 | (+ 93) |

※外国人住民(42か国・地域/1,808人)を含みます。

Facebook



YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE

